

平和に向かって歩きだす

那覇市立天久小学校四年 知念 慶

平和祈念資料館への道

緑がゆたかで美しい青空が広がっている

平和げきをみるんだ

戦車や戦とうきの大きな音

ばくだんやばく発の音

耳がちぎれそう

体中がふるえた

八十年前にタイムスリップした気分だ

ひもじい ひもじい

ガマの中ではみんなおなかをすかせていた

食料をとりに行ってくれた女の子

でも持ちかえることができなかったよ

それだけなのに

じゅうをむけられる

失敗しただけなのに

そんなに簡単に命をうばってしまうの？

どれだけ自分勝手なんだよ

日本兵のスパイ

どうせ死ぬんだからと

みんなを殺そうとした

希望なんて感じられなかった

それでも話し合った

ぽつりぽつりと話し始めた。

自分のこと

家族のこと

戦争で人を殺してしまったことも

何年もこうかいしていること

あいての言葉に耳をすます

わかりあおうとする心

心が開くと未来が見えた

「一緒に出よう、ガマの外に。」

かたを組みゆっくりゆっくり歩き出す

パンツ

じゅうせいが鳴りひびいた

いっしゅんでうばわれた命

いっしょに旅をしようって約束したのに

家族を紹介したいって話していたのに

それでもなかまはわすれない

ともにかたを組み歩き出したことを

平和は話すことから始まった

どんなに相手が悪くても

どんなに理かいできなくても

相手をしろうとすること

本当の気持ち話すこと

未来を見て

希望の光を見つけること

ぼくも平和に向かって歩き出すよ

こわくても あきらめずに

平和な未来になるように